三崎港報
発行所　三崎港報社
三浦市三崎4丁目11番5号
郵便番号 238－0243
電話(881)5245番（代表）
購読料 1ヶ月1800円 1部70円
郵送 1ヶ月3500円(前納)
営業広告1段1センチ 700円
特別広告 別規定による
(広告料はすべて前納)

25日「みうら・みさき海の駅フェスタ2015」

認定10周年を記念し

チビッ子と一緒にマダイの稚魚を放流する小泉政務官

三崎FW「うらり」が「海の駅」として認定されて今年で10周年を迎えたのを記念し、25日産直センター交流広場を中心に「みうら・みさき海の駅フェスタ2015」が開催された。三浦市は国や県、関係団体、企業と協働して海の駅を中心に地方創生への歩みを進めようとこのフェスタを企画した。海業プレイスで行われたセレモニーには内閣府で政務官を務める小泉進次郎衆議院議員も駆け付けた。

「海の駅」は既存の施設・設備を活用しながら誰でも気軽に使用できる「舟艇振興」拠点と定義され、国土交通省が設置や取り組みを推進している。同時に、「体験する」「憩う」「遊ぶ」「味わう」という4つの楽しみが示され、「道の駅」と同様、地方創生拠点として機能を発揮することが期待されている。

また、平成24年度、「みうら・みさき海の駅」周辺を含む城ヶ島・三崎地区は県から「新たな観光の核づくり事業」の構想地域として認定されている。県は国の先行型地方創生交付金を活用し、今年度「かながわシープロジェクト」を本格実施に移すなど、海からのまちおこしを推進する環境が整いつつある。

主催は「みうら・みさき海の駅フェスタ2015実戦会議」。この会議は三浦市と三浦海業公社を主宰団体に国土交通省関東運輸局、神奈川県、城ヶ島区、(株)城ヶ島、(株)スバル興業、みうら漁業協同組合、グローブライド(株)、(株)ヤマリアが構成団体。

セレモニーで挨拶に立った吉田英男市長は「海の駅という名前に三崎がふさわしい場所として全国に情報発信し、道の駅より有名になるよう取り組んでいく」などと挨拶。小泉政務官は「三浦は物販施設が整っている。海の駅イコール三崎というイメージを広めていくべき。海の駅大使を自称する私も一緒に盛り上げていきたい」などと祝辞を述べた。セレモニー出席者はこの後、近くの岸壁からマダイ稚魚約500匹を放流した。

このほか、うらり周辺と対岸の城ヶ島では海上釣堀Jsフィッシングのオープニングイベント、ヨット・ボート体験乗船会、海の魅力発信ブース、津波救命艇展示試乗会などが行われた。なお、フィッシングイベントは中止された。